

令和 6 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立和歌山ろう学校

校長名：吉田 幸子

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

聴覚障害教育の専門性を発揮し、本校はもちろん県下すべての学校等における聴覚障害のある幼児児童生徒が自立し、貢献し、自己実現ができるとともに、豊かな社会を創る担い手として活躍できる力を育てる学校。

学校評価の公表方法

PTA 役員会、学校運営協議会、職員会議、ホームページ等の場において公表する。

現状・進捗度

A	十分に達成している。	(80%以上)
B	概ね達成している。	(60%以上)
C	あまり十分でない。	(40%以上)
D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（2月21日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	聴覚障害教育における専門性の継承と向上	B	聴覚障害教育に関する研修の充実	聴能基礎研修の実施（年6回）	A	年6回実施した。	「自立活動の計画・記録」の「実態把握」について、客観的な評価を取り入れていく。 聴能基礎研修、教科研については、引き続き効果的な内容、時期等を検討して、実施する。
			聴覚活用等、こどもの実態に応じた合理的配慮の検討と提供	「自立活動の計画・記録」に反映できているか	C	担当者間で協議できたが、反映には手立てが必要である。	
			聴能、発音・発語、自己理解、言語についてのプログラム作成（3カ年計画：今年度は2年目）	教科研（グループ別研修）の実施（年6回）	A	年6回実施した。中間報告会を1月に実施した。	
2	授業の改善及び授業力の向上	C	授業力向上を目指した研修の充実	学部研（年7回）と公開授業研（12月）の実施	A	学部研を年7回実施した。公開授業研を12月に実施した。	引き続き、学部研、公開授業研、授業参観期間の設定は行っていく。 「実態把握」については、客観的な評価も取り入れ、「個別の指導計画」に反映させる。
			教員が互いの授業を参観し、特に他学部について学び合う機会の設定	授業参観期間の設定（年3回：毎学期ごと）	A	年3回実施（3学期は3月に実施予定）。	
			「個別の指導計画」の作成と活用についての充実	こどもの実態把握について各学部で協議の実施（年3回）	A	各学部で実施した。	
3	センター的機能の充実と情報発信	B	ホームページを活用した本校の教育活動等の情報発信	ホームページのリニューアル及び改良	A	トップページの改良や小学部の内容等をリニューアルした。	聴覚支援に関わる3校の支援学校の相談支援状況把握とともに、4校間の教育相談の情報共有及びつなぎ合う等の連携強化を図る。 本校の教育活動の効果的な発信に引き続き取り組む。
			インスタグラムを活用した本校の教育活動等の情報発信	教育相談生在籍校へのインスタグラムの周知	A	フォロワー数376名（R7.2.19現在）（R6.2.21は222名）	
			県内聴覚支援体制（4校連携）の整備・充実	教育相談活動の協働と分担、会議・研修の実施（年3回）	B	会議・研修は3回の実施。連携をより進めていく必要がある。	
4	学校安全についての充実	C	危機管理意識の向上及び実用的な訓練計画の作成と実施	学校安全部と他の分掌部の連携による実施（年6回）	B	実用的な訓練を6回実施し、マニュアルの整備に努めた。	来年度も目的を明確にした訓練を積み重ね、近隣地域との情報交換を行い、対応力を高めていく。 挨拶やマナー向上、交通安全指導について、引き続き取り組んでいく。
			地域との連携	挨拶の促進、マナー向上、通学時間帯の交通安全指導	C	職員会議等で共有をしたが、その後の行動変容を把握できていない。	
			大規模災害（地震津波）時の避難計画についての近隣地域の情報収集	近隣校等との防災計画の情報交換（保、園、小、中、高）	B	砂山地区保育・連絡協議会において情報交換を行った。	

学校関係者評価（2月21日実施）

令和6年度学校評価より（2月実施）
〈概ね評価をいただいた点〉
○本校の教育目標や重点目標を分かりやすく示す機会を設けている。○こどもたちは楽しく充実した学校生活を過ごしている。○本校の校内行事が、こどもにとって日頃の学習成果を発揮する有意義な機会となっている。○本校は、こどもの健康面・安全面に留意した指導を行っている。○本校では、防砂・防犯に関する取り組み（避難訓練、不審者対応訓練、心肺蘇生法講習会等）を行い、こどもの安全の確保に努めている。○本校では、こどもが将来「自立・貢献・自己実現」できる取り組みが行われている。○公開授業研の継続実施。
〈今後の課題として〉
○今年度、各教室のカーテンの新調や各教室の電気のLED化、視覚室の音響機器の修繕、理容室の修繕、寄宿舎の修繕、運動場側溝の泥よけ及び側溝蓋の新調、次年度は体育館の大規模全面修繕等に取り組んできたが、次年度も引き続き本校の施設、設備を充実させる。○校舎、校庭、教室等の美化に努める。特に中高棟の廊下や階段、特別教室等の整備に努める。○保護者や地域の方々と情報交換したり、HPやインスタグラムを活用し発信を充実させたりすることで、教育活動を理解してもらい、取り組みを広く知ってもらうことに繋げる。また、学校行事等を通じ、本校の取り組みをより知っていただける発信にも取り組む。○保護者や地域の方の意見を日常的教育活動やカリキュラムに取り入れ、地域に開かれた教育の充実と一層の連携が必要である。学校行事や奉仕活動、防災への取り組み等を通じて、地域の方と連携を深めていく。○教員の地域の学校訪問や研修の機会を確保し、幅広く専門性を磨いていく必要がある。○手話研修の充実を図る。○聴覚障害教育、教科指導等の専門性及び教員としての資質向上に努める。